

ブック村だより

本学コレクション紹介 (31)

ルソー 『政治経済論』⑥	森岡 邦泰(1)
本との出会い、自分との出会い.....	山根 智仁(2)
ぶっくす・なう.....	(4)
『火星の人—オデュッセイ—』	谷岡 一郎
『千の顔をもつ英雄 上、下』	塩田 眞典
『今、日本人に知ってもらいたいこと』	下山 晃
『ものづくり』の科学史—世界を変えた《標準革命》—	河辺 純
学生選書スタッフとしての読書体験.....	下山 由生(6)
レファレンス資料紹介.....	(7)
インフォメーション・開館案内.....	(8)



ディドロ (グルーズ画)

出典：『ディドロ著作集』第1巻『哲学 I』（新装版） 小場瀬卓三／平岡昇 監修 法政大学出版局 2013.5

本学コレクション紹介 (31) ルソー『政治経済論』⑥

ルソーが「政治経済論」を載せた百科全書のもう一人の編集者がディドロである。ディドロは今日グランベール以上に有名になってしまったが、百科全書の編集開始当時は、科学アカデミー会員のグランベールと違い、知名度は低かった。

ディドロはパリ100キロ南東の町の刃物職人親方の息子で、成績優秀だったため中等教育の学校の先生のすすめでパリに出た。パリ大学で19歳で教授資格を取った後は、父親の命令で同じ故郷出身の代訴人の法律事務所働いたが、仕事にまっ

たく興味が持てず、ギリシャ、ラテンの作品を読みふけり数学の勉強に没頭した。もてあました代訴人が「では君はいったい何になりたいんだね」と聞くと、「僕は何にもなりたくありません。勉強がしたいんです。今のままで充分で何の不足もありません」と答えた。父親は定職に就くように要求し、さもなければ故郷に帰ってこいと命令した。いずれも拒否したディドロは送金を打ち切られ、代訴人の家を出て浮浪生活に入ったのである。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

本との出会い、自分との出会い

経済学部 経済学科 山根 智仁

読書のあり方を振り返ると、30年前と現在とは、まるで変わってきたことに気が付きます。小学生の4年生頃から近所の図書館分室に行って、本を手当たり次第に借りて、読み終わったら、すぐに返却して、まとめて借りるということを繰り返していました。1週間で3冊から4冊程度、読んでいた記憶があります。食事をするのと読書をするのがあまり変わらない感覚です。ジャンルも無造作です。現在では、仕事に関連する本を除くと、1週間に1冊程度しか読まなくなりました。この分野について知りたいという目的があって、それに合う本を買います。学生がレポートや卒業論文を書いている姿を見ていて、最初から上手に検索しようとしすぎている気がします。試行錯誤を繰り返さないと、良書と出会うのは難しいでしょう。

今、思うと、子どもの時に読んだ本の内容をどれほど理解していたのかは疑問です。現在では、専門分野である経済学でも、それ以外の分野でも、本を読むときには、著者と対話をしているような感覚です。ページを進めるたびに、読み返すことが多くて、時間がかかります。

35年以上前ならば、そこまで考えずに、新しい知識を驚きとともに、吸収していたのかもしれませんが。乱読した中で忘れられない本というのは、自然科学の入門書に集中しています。佐藤文隆『アインシュタインのたまご』（朝日新聞社、1979年）と片山泰久『量子力学の世界』（講談社、1967年）の2冊が、とりわけ印象に残っています。中学校の文集に「プランクみたいな物理学者にな

りたい」という趣旨のことを書いたようです。『量子力学の世界』では、マックス・プランクは、当時の力学に忠実な立場から黒体輻射を研究した結果、意図せざる帰結として量子論の扉を開いた、やや保守的な人物として描かれていたので、憧れたのでしょうか。

物理学の入門書としては、ファインマンの『物理法則はいかに発見されたか』（岩波書店、2001年）の方が親しみやすいでしょう。「科学の存立のために必須なのは、自然とはかくあるべきものだ」という哲学めいた予断を認めない自由な精神なのです」（227頁）という一文を読み返すと、自分の専門分野で船底に着く牡蠣殻のような「予断」を丁寧に取り除かなくてはとったりします。



ここまでの本とのお付き合いは、いわば「プライベート」に属する領域で、制度化された教育を度外視してきました。学校教育の効果を実感したのは高校以降です。課題図書の一つに高坂正堯『文明が衰亡するとき』（新潮社、1981年）がありました。感想文を書いた覚えはあるのですが、当時の私では2、3割程度も理解できたかどうか、怪しいです。今で5割に到達したかどうか。わから

ないなりに10年ごとに読み返す、長いお付き合いになりました。ローマ帝国の衰亡論に財政破綻という視点を持ち込んだ、本書を読んで経済学を学ぶ道を選んだと書くと、万事丸く収まりそうですが、誠に遺憾ながら、これは事実と反します。自然と同じように人間社会にも法則があるのだろうかと思ったり漠然と考え始めた時期に、本書と出会って、社会に関する学と自然科学とでは法則の捉え方が異なるかもしれないと感じました。

専門書以外で30代以降、最も時間を割いたのは、塩野七生氏の『ローマ人の物語』全15巻でしょう。塩野氏は、『文明が衰亡するとき』を収めた『高坂正堯著作集 第5巻』（都市出版、1999年）の解説を担当しています。歴史に対する姿勢を高坂氏が「死」から始めるのに対して、塩野氏自身は「誕生」から始めると叙述して、立場が異なっても、対話が終生、絶えなかった消息を語っています。その塩野氏も、古代ローマの末路となると、衰亡を正面から描写せざるをえません。興味深いのは、『ローマ人の物語XV ローマ世界の終わり』（新潮社、2006年）で非生産的な四大階級の一つとして、大規模農園の所有者である元老院階級を挙げた上で、元老院階級を擁護しつつも、彼らの振る舞いに別の意味で、ローマ帝国の「末期症状」を見ている点です。

塩野氏は、元老院階級が自らの大規模農園内の自警団や農奴の徴兵に応じないのは利己的であると認めた上で、4世紀後半以降のローマ軍が兵士の安全を保証できないほど衰えたために、徴兵を拒否したと推測しています（69-72頁）。『共同体』（res publica）と『個人』（privatus）の利害が一致しなくなることも末期症状の一つであろうかと思ったりしている。そして、公共心も、個人

が、自分の利害と自分が属す共同体の利害は連動する、と思えた場合に発揮されるものではないか」（72頁）と結んでいます。私益と共同体の利害の不一致が拡大していくというのが、塩野氏が古代ローマの衰退期を描くモチーフの一つでした。今日の日本社会が衰退期にあるのかという問題は悩ましい問題ですが、私益と公共の利益の不一致は、極めて現代的な問題でもあると思います。



このように読書が進むにつれて、自然から人間や社会に関心の重点が移りましたが、それは、成熟にはほど遠いけれども、人間と社会の問題を受け止めることができる程度には大人らしくなったおかげなのでしょう。書籍や図書館とのかかわり方を振り返ってみますと、一貫性がなく、ちららんぼらんだなあ自分でも苦笑します。ただ、図書館での本との出会いがなければ、自然界に強固な法則があるという事実に驚く機会があったかどうか。私にとって、図書館で借りた本から受けた影響というのは、原点となる体験だったのだと思います。

『火星の人—オデッセイ—』

(ハヤカワSF文庫, 2015.12)
アンディ・ウィアー 著

2016年2月末のオスカー(アカデミー賞)「作品賞」にノミネートされた「Martian (オデッセイ)」という映画の原作です。はっきり言って、ここ10年ほどのSF作品の中でも破格の出来栄で、近未来ハードSF分野として最高作と思います。マット・デイモン主演の映画も原作に忠実で楽しいものですが、画面からだけではよくわからない点があるはず。可能なら本を読み、そして映画を観るのがオススメです。

主人公のワトニーは事故で火星に1人とり残され、500日以上を生き延びる必要にせまられます。水や食料は不足、空気も不安な状況で、植物学者としての知恵をいかし、ロビンソン・クルーソーも逃げ

出すほどの工夫で耐え忍ぶのです。何日も生きのびることができた一番の理由は、ワトニーが逆境でも「ユーモアと反骨心を失わなかったこと」に尽きるでしょう。私が望む大阪商大生の姿勢でもあります。ワトニーの日記形式の本を読んで、その精神を学んでほしいものです。

アンディ・ウィアーはまったくの新人で、最初はネット上でこの小説を書き始めたそうです。あまりにフォロワーからの反響がすごかったので、出版されることになった、といういわくつきです。2015年の文庫は2冊分冊ですが、もともと2012年に1冊として出版されています。

(学長 谷岡 一郎)



『千の顔をもつ英雄 上、下』

(ハヤカワ文庫, 2015.12)
ジョーゼフ・キャンベル 著
倉田 真木・斎藤 静代・関根 光宏 訳

妙に人の心を打ち惹きつける物語群がある。それらには何か共通項が潜んでいるようだ。著者キャンベルは、仏典、聖書、コーラン、ギリシア神話、古事記から世界各地の民話、個人の体験談にまで広く立ち入り、そのエキスを抽出する。それを要約すると以下のとおり。主人公は異界に旅立ち、様々な体験を経た後、この世に帰還し善をもたらす。そう、これは英雄譚なのである。

彼もしくは彼女は旅の途上で、父性的なもの、母性的なものとの確執、逃走、一体化等の体験を経て変身し帰還し何かを救済する。その物語には、イニシエーション、変身、自己犠牲、救済等といった要素が含まれている。これらの要素は表層に流れる物語の背後に隠されたキー概念であり、

人々の潜在意識をいたく刺激する。オルフェウス、オデッセイ、キリストの物語も、ワグナーの指輪四部作も、トールキンの指輪物語も同じ構造だ。

そうか! こういった概念を物語に埋め込んでおくとうけるんだな、と考える人たちが出てくる。ジョージ・ルーカスは『スター・ウォーズ』を構想中、本書に読み耽っていたらしい。かくして、決して読みやすくはない比較神話学の本はハリウッドの辣腕プロデューサーやライターたちにヒットを飛ばすための「実学書」として読まれ始める。ならば、教養と問題意識さえあれば、シェイクスピアも夏目漱石も「実学書」としても読めるはず。



(図書館長 塩田 真典)

『今、日本人に知ってもらいたいこと』

(KKベストセラーズ, 2011.7)
金子 兜太・半藤 一利 著

学生時代、ぼくは日本大学に通いながら、東京大学の俳句会に加入すると共に、金子兜太先生主宰の『海程』という俳句雑誌の同人となって「遊学」していた。パンダみたいな金子先生、カリスマ的人望がある、骨太い、あったか〜い、じつに誠実な鷹揚な大人物である。

その金子先生が、「歴史探偵」として戦争史に造詣の深い半藤一利さんと対談したのが本書。半藤さんとはお会いしたことはないが、勝海舟にぞっこん惚れ込んでいることや靖国問題に関する発言などから鑑みると、「人物」を見極める視線を保った人であるにちがいない。

学生向けのこの欄で、おじいさん2人の対談である本書を特におすすめるのは、この2人の傑出したキャラに加えて、2人ともが学生諸君と同

年齢の頃から戦争を直にみつめ、その極限の困難な状況を経た後に捻り多い豊かな人生を華開かせてきたことの意味を、学生諸君にも深く深く考えてみていただきたいからである。小さな悩み事はすぐに吹き飛ばし、ほん

とに値打ちのあるすばらしい生き方ってどんなものかな、と熟考するためのヒント満載、人生の指針となる「幸せ強化書」なのです。晩年の陳舜臣の著作と同じく、「人びとは歴史から何も学ばないというのが歴史の教訓」と本書末尾に嘆息も書かれているのは、ちょっと、気がかりやけど……。

響太郎

(総合経営学部 教授 下山 晃)

『「ものづくり」の科学史
— 世界を変えた《標準革命》—』

(講談社学術文庫, 2013.8)
橋本 毅彦 著

「標準」を著者は、「現代社会に生きるわれわれにとって、水や空気のようなものである」と表現している。プリンターのトナー、ホッチキスの替え芯、コピー用紙、トイレトペーパー…私たちの生活必需品は標準化されたもので溢れている。

「標準」といえば、経営学でもおなじみのF.テイラーやH.フォードも本書では登場するが、「標準」の歴史的発展過程で二種類の「スタンダード」が登場したという後半の物語も興味深い。ひとつは皆さんも日常よく見聞きしているであろう「デファクト・スタンダード」(事実による標準)、もうひとつは「規格」(例えば「JIS規格」とも呼ばれたりする「デジュレ・スタンダード」(法律による標準)である。どちらも効率性や安全性追求の結果設定された基準ではあるが、そこに至

るプロセス(ドラマ)が面白い。

単純に考えれば、専門家や国が精緻に検証し公的機関が認証する「デジュレ・スタンダード」の方が勝っていそうだが、モノによっては人間の習慣や経験といった偶然の蓄積によって辿り着いた「デファクト・スタンダード」が「標準」として定着することも多いそうだ。その代表的なものに、PCのキーボードの配列や自動車のアクセルとブレーキの位置などがある(ハンドルは道路の通行規則にならって左右の違いはあるのに)。皆さんの身の回りのスタンダードは「デジュレ」なのか「デファクト」なのか、どちらでもないのか、本書をきっかけに検証してみては。

(総合経営学部 准教授 河辺 純)



学生選書スタッフとしての読書体験

下山 由生 (2016年3月 総合経営学部経営学科 卒業)

選書スタッフとしての活動に参加する以前の私は、本は一人で読むものだと考えて疑わずにいました。関心を持った本を読んで、ひとり学び、満足して読み終える。それが読書だと考えていました。そんな私にとって、読書会や選書ツアーといった学生選書スタッフとしての体験は読書という慣れ親しんだ経験を通じながらも、非日常的で刺激的な催しでした。

選書ツアーでは自分の読みたい本だけでなく、みんなに読んでもらいたい本や普段関心のない分野の本に目を向けることで、自分や他の人の関心・興味について考えることができました。また、選んだ本にはその人の個性が表れることもあり、他の参加者の方が選んだ本を眺めるのが、わくわくして楽しかったのを覚えています。読書会では、紹介したい本に関する自分の意見や感想を出せる限り精細に伝えられるように、内容を自分なりに要約したり、内容の先にある問題に思考を巡らせたり、普段以上に一冊の本を読み込むことが出来たのではないかと感じます。また、他の参加者の方が紹介する本も自分が手に取らない本ばかりで、新しい発見や関心を得ることができました。そうした選書ツアーや読書会での体験もまた一つの読書を通じた経験であり、みんなとの読書というのは好きな本を一人で黙々と読むだけでは経験できない楽しさがあると知りました。一人で本と向き合う読書も有意義であることには違いな

いのですが、そればかりが読書ではなかったのだと今はそう思っています。

本を読んでいると、思わぬところに不思議と印象に残る言葉があります。その本を読む人、また読む時の気分や関心に応じて、目に留まる本や文章が変わってくるのも読書の面白さではないかと思います。そして、その時に目に留まるものとは自分の関心が直接表れたものであるかとも思われます。本を読んだ自分の感想を共有するために、他の方と意見を述べ合うことは本の紹介に留まらず、自分らしさの表出でもあるように感じます。読書をただ読むだけの入力としての行為でなく、表現という出力を兼ねた活動にしてくれるのも読書会の魅力なのではないかと思っています。

読書会のように、自分の紹介したい本を発表しあい、関心分野をお互いに広められる機会というのはなかなか得られるものではありません。その意味でも、読書会を通じた読書は貴重な体験と言えるのではないのでしょうか。私は学生選書スタッフとしての活動に参加させていただいたことで、それまで知らなかった新しい読書の楽しみ方を教わりました。他の学生の方々にも、読書会などのコミュニケーションを通じた読書体験の楽しさを知ってもらいたいと思います。そうしてもっと読書が好きになってくれれば、また図書館が好きになってくれれば嬉しいです。

レファレンス資料紹介

業界情報について調べる

今回は業界動向に関する調査に役立つ資料をご紹介します。

『業種別業界情報』（経営情報出版社）年刊
【6階参考図書 J335.21 / C67】

350の業種が収録され、「最近の業界動向」「マーケットデータ」「業界の特性」「ノウハウ」「今後の課題/将来性」についてまとめられています。

- ・各業界の仕組み
- ・特性企業規模
- ・商品知識
- ・流通経路
- ・売上・利益
- ・業界の悩み・今後の方向
- ・最新動向

について調査・分析され、解説されています。

また、中小企業約23万社のデータに基づいた最新の経営指標（㈱TKCとの業務連携による）が掲載されています。

『業種別審査事典』（金融財政事情研究会）
（不定期刊）

【6階参考図書 J338.55 / Ki48】

千数百種の業種について、

- ・業種の定義、特色
- ・市場規模
- ・業界の動向
- ・特色
- ・課題と展望
- ・業務内容・特性
- ・審査のポイント
- ・取引推進上のポイント
- ・関連法規

などが記載されています。

各巻巻末には、各巻収録業種一覧・収録業種総索引も掲載されています。

『会社四季報業界地図』（東洋経済新報社）年刊
【2階資格・就職・留学】602.1 / To86

約170の業界について、『会社四季報』の業界担当記者による解説とともに

- ・業界規模
 - ・地図(図解・相関図・一覧など)
 - ・四季報記者のチェックポイント
 - ・もうけの仕組み
 - ・オススメ情報源
 - ・注目の会社・経営者
 - ・平均年収・平均年齢
- などが掲載されています。

『日経MJトレンド情報源：流通経済の手引』
（日本経済新聞社）年刊
【3階】675 / N71

注目企業の動向、最新消費トレンドの動向が日経MJ専門記者により分析されています。

巻末には、日経MJにより毎年行われる独自調査が掲載されています。

- ・小売業調査
- ・専門店調査
- ・卸売業調査
- ・飲食業調査
- ・コンビニエンスストア調査
- ・サービス業調査
- ・百貨店調査

『全国企業あれこれランキング』
（帝国データバンク）年刊

【6階参考図書】J335.035 / Te25

帝国データバンクが保有する企業データベース「COSMOS」より売上高・利益率・売上高営業利益率などの指標を用いて

- ・全国ランキング
- ・財務ランキング(自己資本比率・営業収支・経常収支など)
- ・都道府県別ランキング
- ・業種別ランキング

などが作成されています。約3万社が収録されています。

図書館インフォメーション

◆寄贈書紹介

本学名誉教授 高橋哲雄先生より著書『ミステリーの社会学』[韓国語訳]を寄贈頂きました。同書は大学院生の必読文献として高麗大学日本研究センター 所長 兪在真氏の尽力により韓国語訳され、高く評価されています。
『미스터리의 사회학』 고려대학교 일본추리소설연구회 訳 (역락, 2015.8)



◆展示コーナーをご活用ください

『新生活応援フェア』2階特設コーナー

新入生のみなさん、新たに一人暮らしや就活を始めるみなさんにお薦めする本を集めました。初心者向けレシピや勉強のコツが学べる本など幅広く集めているほか、「本屋大賞受賞・ノミネット作品」を取り上げています。図書館2階特設コーナーに展示しています。

◆2015年度 年間貸出ランキング

- 第1位 フランス人は10着しか服を持たない / ジェニファー・L・スコット著 (大和書房, 2014.10)
- 第2位 マスカレード・イブ / 東野圭吾著 (集英社, 2014.8)
- 第3位 火花 / 又吉直樹著 (文藝春秋, 2015.3)
- 第4位 新会社法エッセンス / 宮島司著 (弘文堂, 2014.9)
- 第5位 お金が貯まるのは、どっち!? : お金に好かれる人、嫌われる人の法則 / 菅井敏之著 (アスコム, 2014.3)

2016年度 図書館開館カレンダー

6 月							7 月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1	2
			○	○	○	△						○	△
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
☆	○	○	○	○	○	△	☆	○	○	○	○	○	△
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
☆	○	○	○	○	○	△	☆	○	○	○	○	○	△
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
☆	○	○	○	○	○	△	休館	○	○	○	○	○	○
26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30
☆	○	○	○	○			休館	○	○	○	○	○	○
							31						
							☆						

8 月							9 月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1	2
			○	○	○	△						△	△
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館	☆	△	△	△	△	△	△
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
休館	休館	休館	△	△	△	△	休館	△	△	△	☆	☆	☆
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
休館	△	△	△	△	△	△	休館	☆	△	△	☆	○	△
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	
休館	△	△	△				☆	○	○	○	○	○	

○ : 8:00~22:00 (平日 20:00以降2Fのみ)	△ : 9:00~18:00 (土曜)
○ : 8:00~22:00 (ウォーミングアップ週間(試験の準備期間))	☆ : 9:00~18:00 (2Fのみ) (日・祝)

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。開館日程および時間は変更されることがあります。詳細は図書館1階掲示板・館内配布チラシ・ホームページ等でお知らせ致します。